

令和2年度 学校評価シート

学校名：和歌山県立たちばな支援学校

学校長名：東 晋 平 印

めざす学校像 育てたい生徒像	<ul style="list-style-type: none"> 専門性と科学的根拠に裏付けられた確かな教育実践に取り組む学校 自己の発達の可能性を最大限に伸ばそうとし、社会自立及び社会参加を目指して、たくましく生きる児童生徒
-------------------	---

本年度の重点目標	1 キャリア教育の視点に基づく授業実践力の向上を図る。
(学校の課題に即し、精選した上で、具体的かつ明確に記入する)	2 地域との協働や教育力を活用することにより児童生徒の学習活動の充実を図る。
	3 防災教育の充実を図る。
	4 地域に根ざした学校として特別支援教育のセンター的機能を充実させる。

中期的な目標	<ul style="list-style-type: none"> 高等部卒業後の進路の充実 校区内の小中高等学校との定期的な交流学習の充実 特別支援教育におけるセンター的機能の充実 校内のICT環境の充実
--------	--

学校評価の結果と改善方策の公表の方法	<ul style="list-style-type: none"> 本校ホームページにて公表
--------------------	--

達成度	A	十分に達成した。(80%以上)
	B	概ね達成した。(60%以上)
	C	あまり十分でない。(40%以上)
	D	不十分である。(40%未満)

(注) 1 重点目標は3～4つ程度設定し、それらに対応した評価項目を設定する。 2 番号欄には、重点目標の番号を記入する。 3 評価項目に対応した具体的取組と評価指標を設定する。
 4 年度評価は、年度末(3月)に実施した結果を記載する。 5 学校関係者評価は、自己評価の結果を踏まえて評価を行う。

自 己 評 価							
重点目標			年度評価 (2月26日現在)				
番号	現状と課題	評価項目	具体的取組	評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善方策
1	キャリア教育の視点に加え、教科指導の充実、子ども軸からだけでなく、教科軸からの視点も入れた授業づくりとして、「算数(数学)」、「国語」を中心に、わかる授業を目指し教員の授業力向上に取り組んできた。今後、実効性の高い授業改善を進めていく必要がある。	<ul style="list-style-type: none"> キャリア教育の視点による「つきたい力」を意識した授業実践が取り組まれているか。 それぞれの教科の特性に応じ、指導目標の精選や授業展開の工夫が図られているか。 	<ul style="list-style-type: none"> 平成28年度作成したリーフレットの活用。 外部講師の指導・助言を仰ぎ、「評価の視点」の妥当性を高め、「算数(数学)」「国語」の授業改善をより確かなものとする。 各教科、領域において自立活動の視点を取り入れた指導を重視する。 高等部軽度知的障害生徒への効果的な教科指導のあり方を探る。 学校運営協議会における意見を、キャリア教育の見直しや充実に繋げる。 	<ul style="list-style-type: none"> 全校研修を重ね、授業実践の検証を行い、研修の成果と課題を共有できている。 全校研修の成果や到達点、全教員に共有できている。 授業研修により、具体的な改善策が明確にできている。 	<ul style="list-style-type: none"> 研修部を中心に、テーマに基づき毎月の全校研修を実施することにより、「つきたい力」を明確にした授業づくりに一定の成果が見られた。 外部講師を招聘し、年2回の授業研修を実施した。教科の本質と主体的に学べる授業展開についての理解が深まった。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 教科等横断的な視点について、学びをつなぐために整理し知識として、共通理解する必要がある。 国語や算数・数学とは違った発想・視点の目標設定が必要な、「音・体・美」を研修として取り上げ、授業力の向上を目指し、研修を進めていく。
2	従前から学校周辺地域や校区内の各市町及び児童生徒居住地校との関係を深め、学習活動を充実させる取組を進めてきた。今後は個々の取組を系統立てて充実・発展させていく体制作りが必要であると思われる。	<ul style="list-style-type: none"> 地域と協働した取組を実施することができたか。 地域との協働や交流学習に児童生徒が興味関心を持って取り組むことができていくか。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域の個人や各種団体と、本校が協働できる取組を増やし児童生徒の活動を充実させる。 児童生徒の居住地校及び本校の近隣校との交流を図る。 地域イベント、役場等での定期販売以外に、企業と連携した地域販売を実施している。 	<ul style="list-style-type: none"> 外部講師を年間3回以上、招聘している。 図書ボランティアの活用 小学部居住地校交流(年2回)、中学部、高等部の学校間交流を実施している。 高等部作業学習における地域販売を実施している。(年間3回以上) 	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症拡大防止の対策により、外部講師の招聘や図書ボランティアの活用はできなかった。 居住地校交流等については、規模を縮小したり間接的な取り組みに変更したりと、相手校と十分に打ち合わせを行い実施した。 地域イベントが中止となったため、作業製品の販売は実施できていない。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症の状況を把握しながら、活動を実施できるかの判断を行う必要がある。 交流学习や、地域販売の意義を踏まえ、相手方と打合せを十分に行い、感染症対策を講じたうえで実施していく必要がある。 ゲストティーチャーの招聘や地域と協働した販売活動を実施する必要がある。
3	災害発生時に適切な行動がとれるよう、継続的・計画的に避難訓練や防災教育に取り組んでいる。また、登下校時の発災を想定した訓練にも取り組んでいる。災害時の避難所運営等について地元行政機関との更なる連携強化が必要である。	<ul style="list-style-type: none"> 現実の災害時に適切に判断し行動できるための防災教育やマニュアルが整えられているか。 地域・関係機関と連携した防災体制整備が進められたか。 	<ul style="list-style-type: none"> 計画的・組織的な防災学習の実施。 全校訓練の他、学部、学習グループ等での訓練の実施。 育成会(PTA)と学校防災に係る課題を共有し、保護者の意識の高揚を図る。 地域住民や広川町等の行政機関との連携強化。 	<ul style="list-style-type: none"> 年2回の地震津波避難訓練を実施している。 消防署、警察署と連携した避難訓練等を実施している。 育成会役員会で、防災を取り上げ検討し(定例化)、研修会を企画、実施している。 年1回の地域合同避難訓練の実施と総括ができていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 避難訓練についてはスクールバスからの津波避難訓練を含む訓練を行い、具体的な課題を認識することができた。 育成会では障害児への理解を求めるリーフレットを公共機関に設置した。 地域合同避難訓練は新型コロナウイルス感染症感染防止のため実施できていない。 地域住民や町との連携は防災倉庫の利用や鍵の保管や連絡先の確認など一定の成果を得ることができた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 避難訓練は今後も様々な場面を想定し継続して行うことで、課題を見だし、修正を加えて行く必要がある。 災害時の児童生徒の安全確保について、日頃から保護者の理解が不可欠であるため、今後も防災についての検討や協力を依頼していく。 地域住民や町等の行政機関との連携について、今後も区長や町担当者との定期的な話し合いを持つことが必要である。
4	本校が有田・日高地方の特別支援教育のセンター的な役割を担っていることについては一定の理解を得ているが、学校運営協議会等より意見を頂きながら本校の教育活動に関する情報発信の充実が必要であると思われる。	<ul style="list-style-type: none"> センター的機能の充実が図られたか。 学校の情報発信力が高まったか。 	<ul style="list-style-type: none"> 校区内の学校や教育行政機関等と協働した支援を行う。 高等学校との連携を深める。 HPや配布物等を通して教育活動に関する情報を発信する。 学校運営協議会の協議題の一つとして情報発信の方法の改善や充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 教育相談等地域における特別支援教育に関する啓発活動を実施している。 地域の幼小中学校への情報発信及び学校の公開。 高等学校との連携、支援体制等の構築。 HPの定期的な更新。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域のこども園、小中学校に対してはセンター的機能を十分に発揮することができた。高等学校に対しては通級指導者との連携ができてきた。 HPについて、「校長室通信」を100号掲載し、教育活動に関する情報を定期的に発信できた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> センター的機能が引き続き発揮できるように関係機関との連携を強化していく必要がある。また、高等学校に対してセンター的機能の内容の周知が一層必要であると思われる。 HPの更新については、様々な情報発信ができるよう手順や役割分担の見直しを行う必要がある。

学校関係者評価
令和3年3月18日 実施
学校関係者からの意見・要望・評価等
<p>【キャリア教育について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○進路状況の報告を聞いて、今年はコロナで就労先を決定していけるか心配だったが、先生方の努力で予想以上に結果が良かった。 ○進路状況から、小学部の子どもや保護者にとっても希望の持てる結果となっていると思われる。 <p>【地域との協働について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○地域との交流を増やすことが、コミュニケーション力の向上につながる。ぜひ、地域での製品販売等を進めてもらいたい。 <p>【防災について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○自主通学生の避難訓練をしている様子を見て感心している。 ○災害時、避難する高台の駐車場は「屋根等がなく備蓄品の運搬が心配」と、地域からの声を聞くことがある。それだけ、たちばなのことを心配してくれているのだと感じている。 ○住民の方の思いも踏まえ、災害等に対応してもらいたい。 <p>【その他】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○作業で素晴らしい製品を作っている。ぜひ、生徒とやりとりをして製品作りの苦労や思いについて聞かせてもらいたい。 ○授業を参観して、子どもだけでなく先生たちの笑顔や姿勢をみて、嬉しい気持ちになった。 ○学校運営協議会の場で、生徒や先生の意見や望みを開けるようになればと感じている。まずは、生徒との対話を実施してもらいたい。